

音楽科学習指導案

題材名「混声合唱の響きを味わい、思いを込めて合唱しよう」

〔学指要領：A 表現(1)ア、イ(7)、ウ(7)、(イ) 共通事項(1)ア〕

令和7年〇月〇日(〇) 第5校時 音楽室

渋川市立渋川北中学校 3年〇組 32名 指導者 〇〇 〇〇

I 題材の構想

1 題材の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	「青葉の歌」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。 - 混声合唱をする際、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方及び、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けることができる。	
思考力、判断力、表現力等	「青葉の歌」の旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、「青葉の歌」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつ。	
学びに向かう力、人間性等	「青葉の歌」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組み、混声3部合唱に親しむ。	

2 評価規準

知識・技能	①「青葉の歌」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 ②創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。
思考・判断・表現	①「青葉の歌」の旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「青葉の歌」にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	①「青葉の歌」の曲想と音楽との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

3 指導及び評価、ICT 活用の計画 ※別紙参照

4 教材曲の価値

【教材曲】「青葉の歌」(小森 香子 作詞/熊谷 賢一 作曲)

きらめく青葉の描写を通して、世界平和や人類愛を訴えるメッセージが込められた混声3部合唱曲である。繰り返し現れる「きらめけ 青葉よ」の歌詞には、異なる旋律がついており、旋律同士を比較することで各声部の重なり方の違いに着目したり、曲想と音楽の構造との関わりについて理解を促したりすることができる。各声部が和声的に重なる部分や掛け合って重なる部分が効果的に用いられており、テクスチュア(各声部の重なり)を捉えやすい。また、強弱などの音楽記号が多様に付けられており、音楽記号とその働きに着目し、その効果について考える学習を通して、感受した曲想と知覚した音楽の構造や歌詞の内容との関わりに気付くことができる。さらに知覚したことと感受したこととの関わりについて気付いたことを根拠に、生徒たちが表したい思いや意図をもち、どのように歌唱表現するのかについて歌い方を様々に試しながら追求することで、歌唱表現への思いや意図をさらに膨らますことができる。楽曲の終末部分は、各声部がさらに2声に分かれており、重なり合う響きの豊かさを実感しながら、混声合唱のよさや美しさに親しむことができる。

II 本時の学習（4／5）

- ねらい 歌詞の内容や各声部の重なり方を手掛かりに感じ取った「青葉の歌」のよさや美しさが伝わるように、歌い方の工夫を様々に試す活動を通して、聴いている人に思いや意図がよりよく伝わる歌い方を工夫することができる。

2 展 開

主な学習活動 予想される生徒の意識〔S〕	○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1 前時の時間を振り返り、本時のめあてをつかむ。 (10分) <めあて> 自分たちが感じた「青葉の歌」のよさや美しさがよりよく伝わるように、工夫して歌おう。 S：前は主旋律や副旋律など各声部の役割と全体の響きとの関わりについて確認したな。自分たちが感じた「青葉の歌」のよさを伝えるために「強弱」に着目して工夫したらよさそうだな。	○歌詞の内容から想像したことや曲想を捉えて各声部で歌い方を工夫して試したことを想起できるように、印象に残った歌詞やフレーズとともに、前時に工夫した歌い方とその理由を問いかける。 ○自分たちが工夫したいポイントを明確にしていくことができるように、音楽を形づくっている要素やその働きを提示するとともに、どの要素が自分たちの思いや意図を表現する手掛かりになりそうかを問いかける。
2 歌詞の内容や曲想を基にした思いや意図にふさわしい歌い方を考え、各声部や混声グループで意見交流したり、歌い試したりする。(30分) S：自分たちテノールパートは2回目の「きらめけ青葉よ」の部分を、平和や未来への希望が1回目より強くなるように聴かせたいから、<i>f</i>を力強く歌うとともに、テヌートを一つひとつ強調し、際立たせて歌う工夫をしてみたいな。 S：アルトパートは、『さわやかにそよげ』から全部のパートが一斉に揃うから、合わせるように歌いたい」と言っていたな。なるほど、他のパートの動きを考えながら歌うことも大切だな。 ○混声グループになり、表現を追求する S：他のパートの歌い方を聞いてみたら、1回目の「きらめけ 青葉よ」は内に秘めた願いを大切に歌いたいという思いが伝わってきたな。女声のみで歌うことに意味があるのだな。 S：自分たちのパートだけでなく、他のパートの役割や表現の工夫、全体のバランスを考えて歌うことで、「青葉の歌」に対する自分たちの思いがより伝わる歌い方になったな。	○自他の工夫の違いに気付いたり、新たな考えを発想したりできるように、楽譜に書き込んだ互いの考えに着目し、比較したり、取り入れたりすることができないか問いかける。 ○各声部の重なり方や旋律の特徴に気付くことができるように、繰り返し現れる「きらめけ 青葉よ」の歌詞に着目し、それぞれの部分の特徴を比較するよう促す。 ○各声部が考えた表現の工夫のよさを共有し、自分たちの思いや意図にふさわしい表現を追求できるように、各声部の工夫を発表し合う場を設定する。 ○他の声部の役割や全体のバランスにも着目しながら表現の工夫を追求できるように、各声部数名ずつで構成した混声グループを設定する。 ○「青葉の歌」の歌詞が表す情景や、曲想をよりよく伝えるための表現の工夫を見付けることができるように、各声部から出された様々な歌い方のよさを試すよう助言する。 ◆評価項目（思①） 歌唱及び楽譜や学習プリントの記述内容から「歌詞の内容や感じ取った曲想を手掛かりに、旋律やテクスチュアなどの特徴を生かした歌い方について、どのように表現したいか思いや意図をもち、それらに合った歌い方を試しながら、歌唱表現を創意工夫しているか」を評価する。
3 本時のまとめをし、学習内容の振り返りをする。 (10分) S：次の時間は合唱の最後の時間だな。曲のよさや美しさを伝えられるように、学習したことを発揮して、自分の担当するパートの役割を果たせるように歌いたいな。 <振り返り> S：歌詞の内容や曲想に加えて、パートの重なり方を手掛かりにして表現の工夫を伝え合ったり、歌い試したりしたことで、「青葉の歌」から感じた自分たちの思いによりふさわしい表現を見付けることができた。「青葉の歌」のよさや美しさがより伝わるように他のパートの役割や全体のバランスにも着目するとよいことが分かった。自分のパートだけでなく他のパートもよく聴いて、合唱を仕上げたい。	○混声グループで歌い方を工夫したことのよさを実感できるように、表現を追求した部分を全員で歌唱する。 ○自分が受け持つ声部の役割を理解して合唱する意欲を高めることができるように、各声部の役割やバランスに着目して歌い方を工夫できたことを称賛する。

(別紙)

3 指導及び評価、ICT 活用の計画（全5時間：本時第4時） ※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	態
1	・「青葉の歌」を聴き、歌詞の内容や音楽から感受したイメージ、知覚した音楽の特徴、気付いたことなどを伝え合い、題材の課題を把握する。(a) 題材の課題 「青葉の歌」の歌詞が表す内容や、曲想をよりよく伝えられるように、表現を工夫し思いを込めて合唱しよう。	①		①
2	・「青葉の歌」の歌詞の表す内容について話し合うとともに、声の音色や響き、言葉のまともに気を付けながら、各声部別に旋律を歌う。(a)	①		
3	・楽譜や歌詞に着目し、歌詞の内容や曲想との関わりについて、どのように表現したいか思いや意図をもち、各声部で歌い方を工夫して試す。(a)	②	①	
4	・知覚したことと感受したこととの関わりについて、歌詞の内容や各声部の役割などを手掛かりに自分たちが気付いたり、考えたりしたことを基に、「青葉の歌」のよさや美しさが伝わる歌唱表現を工夫する。(a)		①	
5	・表現の工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら学級全体で合唱し、題材全体の振り返りをする。(a)	②		①

*活用するコンテンツ等：(a) 「青葉の歌」の音源